

地域での活動／広報活動 等

教育現場や地域への参加等「**地に足のついた活動**」を通して、身近なところからより良い杉並区の実現を目指しています。あわせて「より良い区政に向けて、今後どうすればよいか」を考える一助としています。

小学校でのゲストティーチャー

- 運動会に向けた「よさこいソーラン節(踊り)」の指導(平成16年～)



- 6年生向け社会科及びキャリア教育授業(平成27年～)

知的障害児・者へのスポーツ指導



- スペシャルオリンピックス・バレーボール・プログラムへの参加(平成18年～令和元年。平成19年から主任コーチ。)

防災・防犯等

- 所属町会にて防災部長
- 震災救援所運営連絡会副会長
- 保護司
- 自転車放置防止協力員
- 防犯自主団体の一員として活動

皆様への広報活動

- 今期も、下記を通じて皆様に区政の状況をご報告させていただきました。
- ◆ 議会開催毎に区政報告書発行(年4回。要約版は年2回。)
 - ◆ 「区政に関する意見交換会」を開催(年4回)
* コロナ禍以降、休止中
 - ◆ ホームページで毎日情報発信
 - ◆ メールマガジンを毎月発行(令和5年2月段階で214号)

子供達への教育活動／居場所づくり

- 小学校放課後子ども教室の新規立ち上げ及び運営あわせて、実施プログラムとして、バレーボール・プログラミング・バルーンアート・モルック教室の開催・指導(平成29年～)
- 地域の子供達に「よさこいソーラン節(踊り)」の指導(平成15年～25年)
- 高校生「探求活動」への協力(令和3年)

PTA等の活動

- 小学校・学校に泊まろう会(平成22年～令和元年。平成23年～27年は実行委員長。)
- 小中合同宿泊震災訓練(平成30年～令和元年)
- 小学校での読み聞かせ(平成21年～令和元年)
- 幼稚園チーム・パパ(親父の会)(平成18年～26年)
- 高校バレー部OB・OG会役員(平成24年～)
- 小学校PTAバレーボール同好会監督(令和3年～)

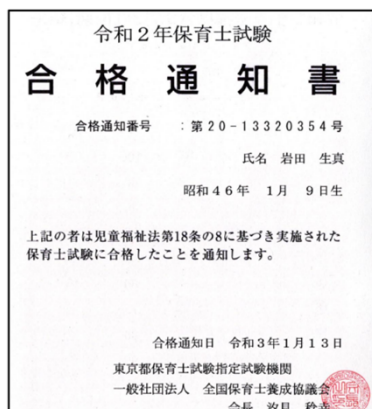
地域イベント等

- 地域のお祭りに幼稚園チーム・パパOBメンバーと出店(平成26年～)
- 地域のお祭りにてバルーンアート作成(令和4年)
- 日本障がい者ダーツ選手権、シニア交流ダーツ大会等にスタッフ参加(平成28年～)

参考:主な保有資格等

議員活動や地域での活動を効果的に行うため、下記等の資格を取得・保有しています。

- 行政書士
- 保育士
- ファイナンシャル・プランナー2級
- メンタルヘルスマネジメント(セルフケア／ラインケア)
- 応急手当普及員
- ダーツC級指導員 等



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告

第78号(令和5年春号)

発行: 岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103
TEL/FAX: 03-3247-8660 E-Mail: ikuma@gakushikai.jp
HP: http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴: 昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。令和元年5月より5期目。
趣味: バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。
家族: 妻、長男(20歳)、長女(17歳)、次男(15歳)。

目次

特集: 今期(4年間)の活動を振り返る(P.1~2)

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| P.1 予算／決算への賛否 | P.3 岩田いくまの 基本姿勢と新たな提案 |
| P.2 議会での活動(政策提言や行政のチェック等) | P.4 地域 での活動／ 広報活動 等 |

「是々非々」での議会活動 ～ 今期(4年間)の活動を振り返る ～

杉並区一般会計の「当初予算」及び「決算」に対する審査には、区政の全体像に対する判断が求められます。この審査は任期中(令和5年2月現在)に7回ありました。

<岩田いくまの賛否>

審査対象		賛否	主な理由
当初予算	令和2年度	賛成	健全財政への取組が見られ、施策指標の進捗に問題意識を持った予算と判断したため
	令和3年度	反対	コロナ禍で歳入減が想定されていたにもかかわらず、事業の見直しが不十分であり、「財政の持続可能性」に対する危機感が不足していたため
	令和4年度	賛成	健全財政への取組が見られ、かつ、新基本構想に基づく事業が適切に予算化されていたため
決算	平成30年度	反対	施策目標の達成状況が過去最低であり、かつ、区自らが定めた財政のルールを守れなかったため
	令和元年度	賛成	区自らが定めた財政のルールが全て守られ、目標を達成した施策指標の比率が上向いていたため
	令和2年度	賛成	区自らが定めた財政のルールが全て守られ、目標を達成した施策指標の比率が(コロナ禍の影響を考慮すれば)上向きと判断できたため
	令和3年度	反対	総合計画(10年計画)最終年度にもかかわらず、目標を達成した施策指標の数が約3割にとどまったため



議会全体でみると、現任期(令和元年5月～)を通して在籍する議員46名(*1)中、「毎回賛成の議員:30名」、「毎回反対の議員:10名」、「**是々非々の議員:(私を含めて)6名**」となります。

議員の仕事は単なる「追認」や「批判」ではありません。今後も区民の皆様のご意見をお聞きしながら、より良い杉並区を目指して「是々非々」で区政に取り組んでいきたいと思っております(P. 2も参照ください)。
(*1)任期当初48名中、2名が他の選挙に出馬。



令和5年2月の代表質問

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX: 03-3247-8660 もしくは E-Mail: ikuma@gakushikai.jp

議会での活動(①議案への賛否 ②政策提言 ③行政のチェック ④議会改革)

議員の議会での主な仕事は、①議案(予算、条例、契約等)への賛否②政策提言③行政運営のチェック④議会改革になります。それぞれについて、今期の特徴的な活動をご報告します。

* 今期(令和元年5月～)の岩田いくまの活動は、HPでご確認いただけます。また、ご連絡いただければ、これまでの区政報告書をお届けいたします。

議案への賛否

議員(議会)には、区長や行政に対して「適切な歯止め役」になることが求められます。

岩田いくまは、P. 1の他、**下記の議案に反対**しました。

議案	理由
杉並区立阿佐谷地域区民センター外3施設の指定管理者の指定について	選定過程の公正性に疑義 があったため
令和4年度一般会計補正予算(第4号)	生活応援臨時給付金(区独自の現金給付)は、いわゆるバラマキ的要素が強く、本当に支援が必要な人に支援が届くようなきめ細やかさに欠けていたため 等

政策提言

議員には、日常の地域活動での気付きや専門性を活かし、区政に提言することも求められます。

日常の地域活動(P. 4も参照ください)での気付きや区民の皆様からのご相談、かつて外資系コンサルティング会社に勤務していた専門性等をもとに、**学校施設の有効活用や世代を超えたつながりを生む居場所づくり、コロナ対策、行財政改革**等を提言しました。以下、今期に実現した提案例をご紹介します。

	提案時期	提案内容	実現した内容
 委員会での質疑	令和3年10月 (決算委員会)	エアロゾル空気感染対策 として、CO2モニターの設置箇所増強を提言	令和3年12月の補正予算において、区内飲食店(約4,300台)、区立施設(669台)にCO2モニターを配付する経費を計上
	平成29年3月 (予算委員会)	ホワイトカラー(バックオフィス業務)の生産性向上策 として、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション。人が行う定型的なPC操作を自動化する技術)の導入を提言	RPA等自動化ツールを令和2年度から導入。令和4年度現在、27業務において活用し、 年間約5,200時間の業務時間削減効果 を見込んでいる
	令和3年3月 (予算委員会)	滞納整理業務の効率化 のため、預貯金等調査システムの導入を提言	令和4年10月に導入・運用開始。導入月には1,534件で活用し、従来の紙媒体では1～3か月要していた照会期間が、概ね1週間以内に短縮

行政運営のチェック

議員には、日常の行政運営のチェックや、決定した施策が正しかったかを検証することも求められます。

令和3年夏の緊急事態宣言中、区長及び幹部職員が区内の経済団体との会合(飲食・宿泊を伴う)のため、県境を越えゴルフ場を訪れていたことがマスメディアで報道されました。

この経済団体トップの経営する企業が阿佐谷地域区民センター外3施設の指定管理者に指定されましたが、**前記会合が開催されたのは、この選定を行っている期間中**でした。

私は、これらの経緯から、公正性に疑義が残るため、議案には反対しました。

議会改革

議員には、自らが所属する「議会」をあるべき姿に近づけていく責務があります。

昨年の12月議会において、「**議員定数を2人削減(48人→46人)する条例**」を、有志議員とともに、**議員提出議案として提案**しました。

情報技術の発展に伴い、情報収集・情報伝達手段が格段に多様化・効率化し、より少ない議員数で多くの区民意見を把握することが可能となっています。それに関わらず、この20年間、議員定数は変わっておりません。

しかし、残念ながら**賛成議員は私達提案者を含めて5人にとどまり、否決**されました。

基本姿勢

- 「未来への責任」を自覚し、長期展望をもって判断する
- 権力におもねることなく、自ら考え、判断する
- 公助に偏ることなく、自助・共助を支援する区政を目指す
- 地に足のついた活動を大切にする
- 「丁寧な政治」「納得の政治」を心がける

教育こそ政治の根本

未来をつくるのは、今の、そして、これからの子供達です。

親世代として、**地域ぐるみで教育・子育てを担う仕組みづくり**に、引き続き率先して取り組みます。

- 地域による学校支援のさらなる拡充
- 「学びに向かう力」を育てる教育の推進
- 家庭での育児を含めた多様な子育て支援

次世代に負担を先送りしない

私達の責任は、「良い世の中」を子供達に引き継ぐことであり、決して「多大な借金」を引き継いではなりません。次世代への責任、**未来への責任として、健全財政を堅持**することは、最低限の責務です。

- 財政収支の黒字化堅持
- 区政経営改革の推進
 - ・ 民間活力の積極活用
 - ・ 新たな情報技術の有効活用
- 区立施設の長寿命化



新たな提案



安全・安心・生きがいまちづくり

平穏な日常こそ、かけがえのない日々の暮らしです。また、人は「必要にされる」ことで生きがいを得られます。地域に根差した視点で**居場所づくりを推進**し、年齢を重ねても、障害があっても、暮らしやすく住み続けたい、そして災害にも強いまちづくりを進めていきます。

- 世代を超えた“つながり”が生まれる居場所づくり
 - ・ 学校等、区立施設の有効活用
 - ・ 町会・自治会・防災会や、地域スポーツ・文化団体等の活動支援
- 長寿時代の生活支援
 - ・ 多職種連携による、医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供
 - ・ 家族介護の支援充実
- インフラ(道路・橋梁等)の適切な維持管理と、地震・豪雨対策の推進